



東京大学 大学院 医学系研究科
公共健康医学専攻

東京大学 大学院医学系研究科

公共健康医学専攻

専門職
大学院

School of Public Health, The University of Tokyo

Epidemiology and Health Sciences

Biostatistics
Social and Preventive Epidemiology
Clinical Epidemiology and Health Economics
Health Communication
Cancer Epidemiology

Behavioral Health Sciences

Mental Health
Health Education and Health Sociology
Health and Social Behavior
Health Promotion Science
Biomedical Ethics
Human Resource Development for Health

Health Services Sciences

Health Policy
Clinical Information Engineering
Healthcare Informatics
Forensic Medicine and Medical Law
Public Health Science
Global Environmental Health
Environmental Health Sciences

目次

本専攻の概要	1
公共健康医学専攻を構成する講座・分野および担当教員の一覧	2
疫学保健学大講座	
生物統計学分野	3
社会予防疫学分野	4
臨床疫学・経済学分野	5
医療コミュニケーション学分野	6
行動社会医学大講座	
精神保健学分野	7
健康教育・社会学, 保健社会行動学分野	8
医療倫理学分野	9
保健医療人材育成学分野	10
医療科学大講座	
健康医療政策学分野	11
臨床情報工学分野	12
医療情報システム学分野	13
法医学・医事法学分野	14
国際環境保健学分野	15
保健医療科学分野	16
教育課程等の概要	17
授業科目一覧	19
2011年度～2018年度 受験・合格者状況	23
公衆衛生学に関する博士課程について	25
Departments and Faculty members	27
Outline of the curriculum	28
公共健康医学専攻修了生からのメッセージ	32
アクセスマップ	35

本専攻の概要

本専攻は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質 (quality of life) の改善において、指導的な役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とする専門職大学院で、平成 19 年度に開設されました。

公衆衛生学は社会に直接関わる研究分野としてますます発展してきており、研究も学術性だけでなく実際的な成果が期待されています。急速に進行する少子高齢化、地方分権、突発的な新興・再興感染症やバイオテロの発生、労働現場における過労死・自殺等の増加、医療事故や医療経営環境悪化などの現代的問題への対応は、わが国の喫緊の課題です。そのため人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れたパブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成が急務となっています。

東京大学大学院医学系研究科では、公衆衛生領域のこうした高度専門職業人養成のための専門職大学院として公共健康医学専攻を平成 19 年 4 月に新設しました。通常の標準修業年限 2 年のコースに加えて、医療関連で一定程度の実務経験を有する人には標準修業年限 1 年のコースが用意されている点が大きな特徴で、修了者には公衆衛生学修士 (専門職) - 英語名 : Master of Public Health (MPH) - が授与されます。本専門職大学院では、公共性や職業倫理を重視しているため、専攻名を公共健康医学としていますが、内容的には海外の公衆衛生大学院に相当するものです。

公共健康医学専攻教員一覧 (2018年5月1日現在)

大講座	分野名(教室名)	教授	准教授	講師
疫学保健学	生物統計学	松山 裕 今井博久(特) 小出大介(特)	大庭幸治(兼) 平川晃弘(特)	坂巻顕太郎(特)
	社会予防疫学	佐々木敏		
	臨床疫学・経済学	康永秀生	城 大祐(特)	
	医療コミュニケーション学	木内貴弘		
	がん疫学			
行動社会 医学	精神保健学	川上憲人	西 大輔	今村幸太郎(特)
	健康教育・社会学		近藤尚己	
	保健社会行動学	橋本英樹		高木大資
	健康増進科学		瀧本禎之(兼)	
	医療倫理学	赤林 朗	瀧本禎之	中澤栄輔 上竹勇三郎(兼)
	保健医療人材育成学			大西弘高(兼)
医療科学	健康医療政策学	小林廉毅	豊川智之	
	臨床情報工学	小山博史		
	医療情報システム学	大江和彦	脇 嘉代(兼、特) 今井 健(兼)	新 秀直 井田有亮(特) 田中勝弥(兼) 河添悦昌(兼)
	法医学・医事法学	岩瀬博太郎(兼)	榎野陽介	
	国際環境保健学		金 允姫	
	保健医療科学		福田 敬(連携)	
	環境健康医学		大迫誠一郎(兼)	

(特) 特任教員, (兼) 専攻兼任, (連携) 連携教員

松山 裕 教授 / 大庭 幸治 准教授

Matsuyama, Yutaka / Oba, Koji



1.「生物統計学」とは？

生物統計学は、医学研究(基礎・臨床・疫学)の実践においてデザインと統計解析に関する統計的方法論を提供する分野です。わが国における生物統計学の教育は欧米に比べ遅れ、講座の設立は 1992 年の東京大学医学部健康科学・看護学科(現:健康総合科学科)の疫学・生物統計学が最初でした。その後、京都大学、大阪大学、名古屋大学等にも講座が開設されましたが、東京大学には他大学、国立がん研究センター、製薬企業等に多くの人材を供給し、教育・研究の面でこの分野をリードしてきた実績があります。公共健康医学専攻においては、臨床試験と薬剤疫学を含む疫学研究について、研究デザインと統計解析に関する実践的な教育を行います。

2.担当科目、課題研究テーマ

医学データの統計解析、医学統計学演習、医学研究のデザインを担当します。生物統計学分野は、附属病院臨床研究支援センター、寄付講座・生物統計情報学、地域医薬システム学、国立がん研究センターなどの学内外の組織と協力して、主に研究者主導の臨床試験・疫学研究の支援を共同研究として多数行っています。公共健康医学専攻の院生に対しては、このような共同研究の場を課題研究およびインターンシップに活

用する予定で、研究デザイン、研究の立ち上げと管理、統計解析と報告といった研究の一連の流れを体験できる体制を提供していきたいと考えています。方法論の研究としては、臨床試験のデザイン、因果推論、メタ・アナリシス、疫学研究のデータ解析、QOL 調査とそのデータ解析などが現在のテーマの中心です。

3.本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HP をご覧ください。

<http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/>

生物統計学分野の教育・研究活動に関心のある方は遠慮なくご連絡ください。

Department of Biostatistics is the longest established laboratory of biostatistics and theoretical epidemiology in Japan. We are working on:

Methodological researches on biostatistics, designs of clinical trials, epidemiological theories, computational statistics, etc.

Application of advanced statistical methods to up-to-date public health research data design, conduct and analysis of clinical trials by collaborating with medical professionals.

Please see our research activity from the above web page.

佐々木 敏 教授

Sasaki, Satoshi



1.「社会予防疫学」とは？

疫学は、健康状態や疾患発生を集団内で計量的に把握し、疾患発生のリスクになりえる因子と疾患発生の関係を統計的に分析し、疾病予防や効率的な保健活動につなげる学問です。飲酒・喫煙、栄養や身体活動などに加え、遺伝子や社会経済因子を対象とする疫学研究も盛んになっています。疫学は、研究方法論を提供するとともに予防保健を実践する実学として、健康科学の中心をなす分野です。

「社会予防疫学」は、疫学の手法を用いて人間社会で起こっているさまざまな現象（個人の生活習慣も含む）と健康関連の諸問題との関連を明らかにし、それを疾病予防・疾病コントロールに用いるための具体的な方策を探る学問です。

2.「栄養疫学」とは？

疫学研究のなかで、栄養や食べ物、食べ方など、「食」を扱った研究を、特に「栄養疫学」と呼びます。当研究室では「栄養疫学」を中心に研究を進めています。食事摂取状況の正確な記述、食事と疾病との関連の検討に加え、このような研究を実施する際に必要な調査方法論の研究、また、食事摂取

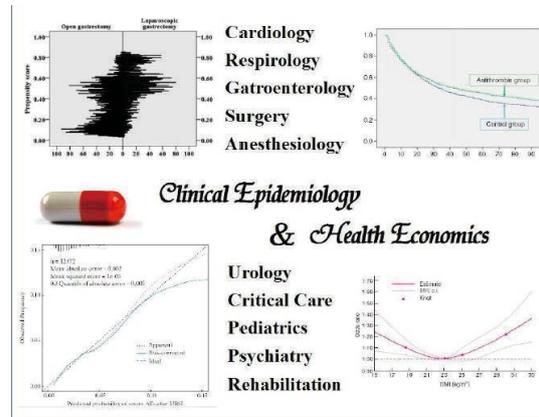
基準等のガイドライン作成に必要なエビデンスの構築に特に力を入れています。

3.担当科目、課題研究テーマ

「疫学研究と実践」、「予防保健の実践と評価」を担当します。疫学研究には対象者の協力が不可欠であり、また研究の最終的な目標は疾病の予防と健康状態の向上です。そのための合意形成や情報のフィードバックに必要な知識・技術もここで学びます。学内外の実務家・研究者と協力して、進行中の疫学（特に栄養疫学）研究の実務作業に参加してもらい、それによって得られたデータを用いて課題研究を実施します。

“Social and preventive epidemiology” studies using epidemiologic methods the relationship between various phenomena occurring in human society and health problems, and explores strategies and methods for the prevention and control of diseases. This department focuses the research on “nutritional epidemiology”, because nutrition is one of the most important and powerful modifiable factors for the prevention and control of disease.

康永 秀生 教授
Yasunaga, Hideo



1.「臨床疫学・経済学」とは？

臨床疫学は、臨床の問題を扱うという点で極めて臨床的であると同時に、疫学的手法を用いるという点で極めて公衆衛生的です。医学の国際的潮流である EBM を実践する基盤となる学問領域として、その重要性は増大する一方です。

また、超高齢社会のもとでの医療資源の制約と医療の効率化の社会的要請を背景として、医療経済学の重要性はかつてないほど広く認識されるに至っています。本学の公共健康医学専攻(SPH)における教育の目的は、専門性と公共性を兼ね備えた公衆衛生のプロを養成することです。中でも臨床疫学・経済学を実践する専門家の育成は国家的急務であるといえるでしょう。

2.担当科目、課題研究テーマ

臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいます。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行います。臨床疫学講義では、これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実

践的な方法論を身につけます。

保健医療経済学講義では、医療経済学の基礎を身につけた上で、医療経済学の考え方や理論について理解を深めてもらいます。医療技術評価学演習では、医療技術の有効性評価および費用効果分析について実践的な知識と技術を身につけます。

臨床疫学・経済学演習では、学生各人が具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、研究の proposal writing ができる実践的なスキルを身につけます。さらに医学英語論文の書き方の基本を学びます。

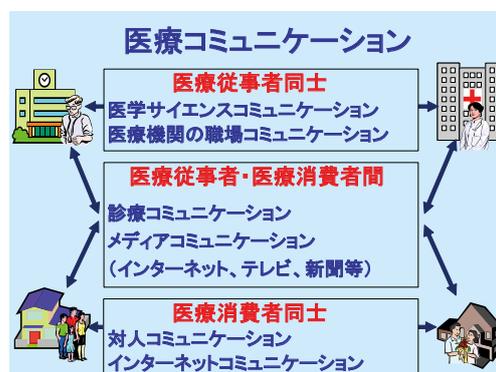
Clinical Epidemiology and Health Economics

Our department implements multidisciplinary studies on clinical epidemiology, health economics, and health technology assessment.

As SPH education programs, we are in charge of lectures for clinical epidemiology and health economics; seminars in health technology assessment; and seminars in study proposal and academic article writing.

木内 貴弘 教授

Kiuchi, Takahiro



1.「医療コミュニケーション学」とは？

医療コミュニケーション学とは、医療・公衆衛生領域におけるコミュニケーションを対象とした学問分野です。日本では、医療コミュニケーション学、医学コミュニケーション学等と呼ばれることが多いですが、英語圏では Health Communication という言葉がよく用いられます。

医療・公衆衛生の分野では、さまざまな場面でコミュニケーションが重要な課題として認識されるようになってきました。具体的なコミュニケーションの機会としては、1) 医療従事者・医療消費者間のコミュニケーション、2) 医療従事者間のコミュニケーション、3) 医療消費者間のコミュニケーションが主として考えられます。これらのコミュニケーションは、古くは対人で行われていましたが、現代では、各種のメディアを介したコミュニケーションも重要性が増しています。

2.担当科目、課題研究テーマ

医療コミュニケーション学講義、医療コミュニケーション学演習、医学研究と CDISC 標準を担当します。課題研究のテーマとしては、主として下記を考えていますが、医療コミュニケーション関連で自分のやりたいテ

マがある場合には、是非ご相談ください。

- ・ インターネット介した各種コミュニケーションサービスの構築・運用・評価
- ・ マスメディア・インターネット等による健康・医療関連記事・番組等の分析・評価
- ・ 医学文献情報の分析と評価(サイエンスコミュニケーション)
- ・ エンターテイメント・エデュケーション
- ・ 患者-医療者間コミュニケーション
- ・ 患者・市民のヘルスリテラシーの評価と教育
- ・ 医療面接教育・コミュニケーションスキル評価

The Department of Health Communication offers courses and conducts research on various levels of communication in healthcare and public health contexts. Major research topics include online health information systems and services, mass media/internet communication, entertainment education, science communication, patient-provider communication, health literacy, communication skills training for healthcare professionals.

川上 憲人 教授 / 西 大輔 准教授

Kawakami, Norito / Nishi, Daisuke

今村幸太郎 特任講師

Imamura, Kotaro



1. 「精神保健学」とは

公衆衛生における精神保健学(Public Mental Health)は、21世紀の重要な健康課題の1つである心の健康の理解とその保持増進のために、公衆衛生学に加えて、心理学・行動科学、精神医学、社会学などの学際的手法を利用し、研究と実践への応用を行う分野です。精神保健の課題は今日、慢性精神障がい者のケア、うつ・自殺対策、職場のメンタルヘルス、災害精神保健、国際精神保健にまで広がっています。本分野では例えば、精神疾患の地域疫学調査「世界精神保健日本調査セカンド」を実施し、世界30カ国との共同研究を行っています。eラーニングによるうつ病の予防や労働者のワーク・エンゲイジメントの向上に関する研究を進めています。研究成果は年間約30編の英文論文として国際誌に公表されています。「東京大学職場のメンタルヘルス(TOMH)プログラム」を開講し、職場のメンタルヘルスの実践リーダーの養成も行っています。

2. 担当科目、課題研究テーマ

担当科目は、精神保健学Ⅰ(精神保健疫学の基礎から精神保健対策の立案を学ぶ)、精神保健学Ⅱ(職場のメンタルヘルスの概要を広く学ぶ)です。課題研究についても、幅広いテーマについて相談にのることができます。大学院の修了生は、行政・自治体、

シンクタンク、大学・研究所で活躍しています。

3. 本分野の教育・研究活動の詳細

本分野についての詳細な情報や公表論文は、HPをご覧ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/heart/>

本分野に関心のある方は川上憲人教授まで遠慮なくご連絡ください(メールアドレス kawakami@m.u-tokyo.ac.jp)

“Public Mental Health” is an interdisciplinary field within public health, which aims to understand the nature of and promote health in our mind, i.e., one of the most important health problems in 21st century. Members of Department of Mental Health conduct research of epidemiology of mental disorders in the community, prevention of depression and promotion of work engagement among workers, among others. The Department provides two classes: Mental Health I (from epidemiology to practice in mental health) and Mental Health II (occupational mental health). It also provides training courses of occupational mental health for leaders in this area. Please contact Prof Kawakami at kawakami@m.u-tokyo.ac.jp for more info.

橋本 英樹 教授/Hideki Hashimoto
近藤 尚己 准教授/Naoki Kondo
高木 大資 講師/Daisuke Takagi



[まちと家族の健康]調査より

1.「保健社会行動学分野」とは？

2012年に新たに始まった分野です。行動科学・心理学・社会学・経済学・疫学などの社会科学の理論や手法を組み合わせ、社会構造や関係が健康関連行動や健康生成に影響するメカニズムの解明が中心的研究課題です。社会的健康格差の解消に焦点をあて、福祉国家の政策的実現に資するエビデンスの発信をこころがけています。

教室のスタッフは主に、社会格差と健康をテーマにしたパネル調査に複数取り組んでいます。若年成人とその子ども・配偶者を対象に社会経済的環境や地域社会の特性がひとの健康や発達に与える影響に注目した「まちと家族の健康調査」(J-SHINE)、高齢者の健康と社会関係資本の関係に注目した「日本老年学的評価研究」(J-AGES)、さらに政府統計個票を用いた社会保障政策の健康影響評価などに取り組んでいます。

2.担当科目、課題研究テーマ

健康社会学、健康教育学、社会と健康 I およびIIを担当します。健康社会学は、健康や病気の成り立ちを、社会的文脈の中で読み解くために必要な理論を扱います。健康教育学ではさまざまなレベルの健康関連行動理論と、実践応用について講義とディスカ

ッションを通じて理解を深めます。社会と健康Iでは、健康の社会的決定要因の理論的ベースと実証研究を系統的に紹介し、IIでは健康格差の課題解決法について受講者自らがリサーチした成果をディスカッションで深め、健康を育む社会的取り組みの設計・評価に必要な実践的な思考を促します。

課題研究のテーマとしては学生のバックグラウンドや興味に応じて適宜相談に応じます。これまでも医療政策の実証的評価、所得格差が及ぼす子どもの健康影響、ヘルスリテラシー、高齢化、災害復興と健康など、量的調査、質的研究、文献研究いずれにも対応しています。

The department intends to integrate health science (medicine and public health) and social science (economics, sociology, and psychology) to reveal a causal mechanism linking social structure and individual health for realizing health equity as a fundamental goal for human security. It offers four teaching courses on health sociology and education, and practicum focusing on social determinants of health in MPH program.

赤林 朗 教授 / 瀧本 禎之 准教授 /
中澤 栄輔 講師 / 山本圭一郎 助教
Akabayashi, Akira / Takimoto, Yoshiyuki /
Nakazawa, Eisuke / Yamamoto, Keiichiro



1.「医療倫理学」とは？

医療倫理学分野では、医療と公衆衛生に関わる政策決定や臨床現場での倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的理論の研究と教育活動を行なっています。主な研究テーマとしては、医療倫理学基礎論、倫理理論（規範理論およびメタ倫理）、政治理論、医療資源の配分、公衆衛生倫理、脳科学研究の倫理、再生医療研究の倫理、研究倫理一般、インフォームド・コンセント、守秘義務、情報開示、脳死・臓器移植、遺伝子医療、安楽死や人工妊娠中絶の倫理、臨床倫理コンサルテーション、臨床倫理一般などがあります。授業では、全体講義や文献講読のほか、グループ・ディスカッションや演習などにも重点を置いています。

2.担当科目、課題研究テーマ

医療倫理学Iでは、公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を学習します。医療倫理学総論・歴史、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行います。医療倫理学IIでは、「医療倫理学I」で扱った内容をさらに深く修得します。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサルテーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論、重要文献の輪読と解説等を行います。

課題研究のトピックスとしては、判断能力、事

前指示、安楽死、医療資源の配分、生体臓器移植、緩和ケア、ES/iPS 細胞研究、生殖補助技術、人工妊娠中絶、エンハンスメント、遺伝子診断など様々です。医療倫理学分野では、医療系(医・歯学、看護学、薬学など)、哲学・倫理学をはじめ、社会学、心理学、法学、教育学、宗教学、歴史学、理学、工学などさまざまな学問的背景や実務経験を持った学生さんを歓迎しています。また、研究でも学際的アプローチを試みています。

In the department of biomedical ethics, we, teachers and graduate students, conduct researches and educational activities including the studies of philosophical and ethical theories, which help us to form our ethical judgments in medical practice and about policy decisions on medicine and public health. For instance, the main topics of our lectures range from foundations of medical ethics, ethical theories, public health ethics, neuroethics, ethics of regenerative medicine to clinical ethics, with group discussions and exercise lessons.

医療倫理学分野のウェブサイト:

<http://www.ethps.m.u-tokyo.ac.jp/>

<http://cbel.jp/>

大西 弘高 講師 Onishi, Hiroataka



1.「保健医療人材育成学」とは？

医学教育国際研究センターでは 2015 年度より公共健康医学専攻において授業や研究室配属を担当させていただくことになりました。多くの国で、保健・医療関連の人材育成は公衆衛生上の問題に対処するための重要な方策と位置づけられています。また、わが国には存在しませんが、北米や英国連邦系の国々、あるいは東南アジア諸国などでは、医学教育・医療者教育を修得するための専門職修士課程も数多く、公衆衛生分野とのつながりは強いです。

学問的基盤としては、学習・教育に関する理論、カリキュラム論、プログラム評価論、学習者評価、心理測定学 (psychometrics)、組織管理学などが挙げられます。

2.担当科目, 課題研究テーマ

担当科目は、保健医療人材育成学、学習者評価学の2つです。講義と共に毎回グループディスカッションを行い、各自の経験を学問的基盤によって説明できるようになっていただくことが大きな目標となります。

課題研究の対象には、多職種連携教育、学習が行われる場の分析、臨床実習・研修の改善、新たな臨床能力評価の開発などが含まれます。研究方法論には、成績データ

や質問紙調査などによる量的アプローチも重要ですが、様々な形での質的アプローチや混合法も重視しています。近年、保健医療人材育成、医学教育、医療専門職教育といった領域における関連学会や専門誌は増えてきており、深めることができる内容は多岐にわたります。

なお、大西講師は国際保健学専攻の協力講座としての指導も行っております。

3.本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HP をご覧いただくか、メールでご質問ください。

<http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/>
onishi-hiroataka@umin.ac.jp

Department of Human Resource Development for Health offers two courses of (1) human resource development for health and (2) learner assessment. We welcome students to conduct research in interprofessional education, clinical education system, and development of a new assessment tool.

小林 廉毅 教授 / 豊川 智之 准教授
Kobayashi, Yasuki / Toyokawa, Satoshi

1.「健康医療政策学」とは？

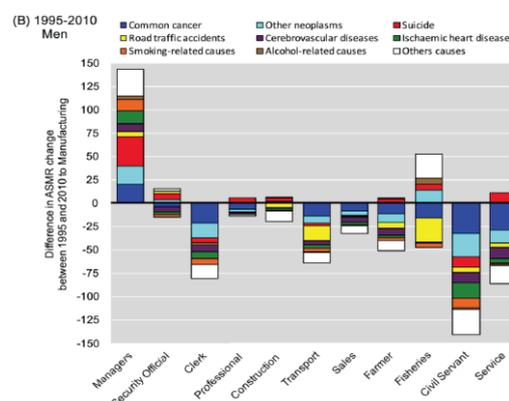
健康医療政策学では、予防・医療・介護等の広義の健康・医療全般における様々な問題を制度・政策論及び経済学的な視点から実証分析し、必要に応じて政策提言につなげられるような研究活動を行っています。

具体的には、診療報酬点数が医療機関などに与える経済的インセンティブ、医療費自己負担の患者受診行動への影響、レセプト情報を活用した種々の傷病の頻度推計や治療パターン分析、医療の質の評価の研究、さらに、マクロ的視点の研究課題として、医療従事者の将来需給や地理的・診療科別分布、医療アクセスの地域格差の研究、産科医療補償制度に関連した脳性麻痺児の疫学研究、社会経済要因の中高年齢層への健康影響や地域・職域における生活習慣病予防の疫学研究などに取り組んでいます。

これらの研究においては、フィールド調査活動、他施設の共同研究、研究室での文献及び数量的分析、及びそれらの有機的関係を重視しています。

2.担当科目、課題研究テーマ

授業科目として、健康医療政策学、健康危機



Contribution of cause specific death to changes in inequalities among occupations (BMJ Open, 2017)

管理学、保健行政・健康危機管理学実習を担当しています。当研究室の教員は、大学院医学博士課程（社会医学専攻）、並びに医学部医学科の公衆衛生学を兼担しています。

Our research activities focus on the topics of health care system and economics in general. We have performed those studies related to supply and demand sides of health services; such as supply and distribution of physicians, access to health care, and the efficiency and equity issues of the Japan's health insurance system as well as universal health coverage system. We also conduct epidemiological studies on the relationships between life-style and socioeconomic factors and people's health.

We offer three courses; "Health Policy", "Public Health Preparedness", and "Public Health Practice" in the MPH Program.

The details are shown in our homepage.

<http://publichealth.m.u-tokyo.ac.jp/>

小山 博史 教授

Oyama, Hiroshi

斎藤 季 特任助教

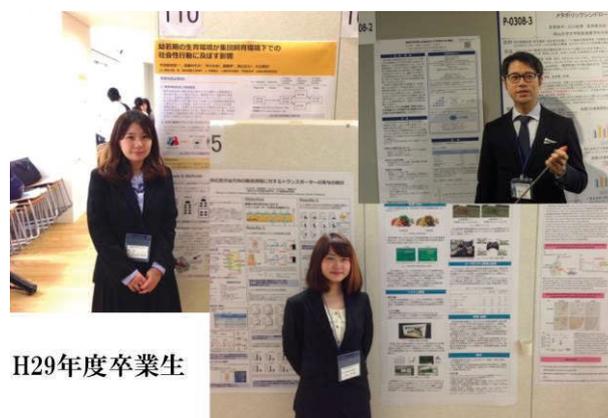
Saito, Toki

古金谷(香山)綾子 助教

Kohyama-Koganeya, Ayako

市川 太祐 特任研究員

Ichikawa, Daisuke



H29年度卒業生

1.「臨床情報工学」とは？

臨床情報工学教室の目標は、公衆衛生活動への情報工学技術の応用に関する研究と教育を行い、優秀な人材を育成することです。特に、情報システムの設計や開発方法論、評価法、VR アプリやコンピュータグラフィックス技術を用いたアプリケーション開発やビッグデータを用いる際に必須となる機械学習や人工知能技術の医療応用に関する知識と技術を有する次世代のデータサイエンティストとなる人材育成と研究に力を入れています。

The purpose of the Department of Clinical Information Engineering is to nurture talented people who have special knowledge and skills at an international level in order to apply advanced information technologies to practical projects in public health. It offers courses on information system design, development methodology, evaluation and project management in biomedicine, health care and public health in the School of Public Health, and data mining and virtual reality.

2.担当科目、課題研究テーマ

公共健康情報学（講義・実習）を担当します。課題研究のテーマとしては以下のものが挙げられますが、学生のバックグラウンドに応じて下記のテーマ以外にも可能な場合もありますので相談してください。

- 1) Public Health Informatics に関する研究
 - ・ 先端的情報技術(例：AI や Blockchain 等)の公共健康医学への応用に関する研究
- 2) 機械学習の医療応用に関する研究：
 - ・ 機械学習を用いた予測モデルの開発
- 3) 医療への VR 技術応用に関する研究：
 - ・ ロボット手術支援用ナビゲーションシステムの研究開発

Our research covers the biomedical computer applications that focus on biomedical data (collection, analysis, and representation). Our laboratory is engaged in the following research activities:

- 1) Public Health Informatics
- 2) Data Mining & Machine learning
- 3) Virtual Reality for Public Health

大江 和彦 教授 / 田中 勝弥 講師

Ohe, Kazuhiko / Tanaka, Katsuya

新 秀直 講師 / 河添 悦昌 講師

Atarashi, Hidenao / Kawazoe, Yoshimasa

今井 健 准教授 / 脇 嘉代 特任准教授

Imai, Takashi / Waki, Kayo

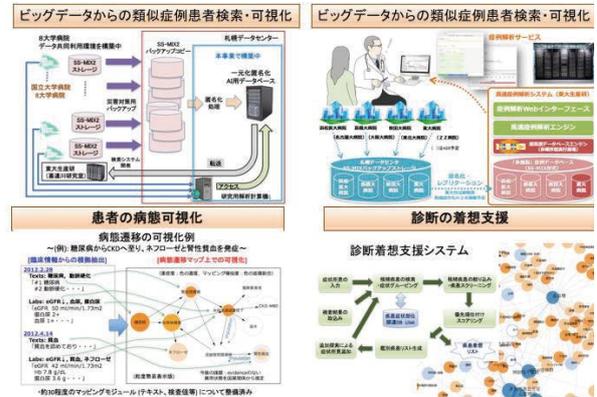
1.「医療情報システム学」とは？

医療・医学においては、診療情報の電子データ蓄積や全ヒトゲノム解析におけるゲノム情報が爆発的に増加し、IoT(Internet of Things)やウェアラブル機器による生活圏での健康情報収集など、膨大な生活医療データの蓄積が始まっています。このビッグデータを解析して新たな知見を得たり、人工知能(AI)技術を活用して、医療・医学の新たな発展に貢献し、医療変革を実現することが、医療情報システム学の目標です。

そのためには、蓄積される電子データをコンピュータ処理できる適切なデータ形式にすること、多施設からのデータを統合解析できるようにデータの標準化を実現すること、大規模な解析に耐えられる精度と質の高いデータが得られるようにすることなど、が求められます。また、電子カルテの自然言語(文章)データの解析や、ゲノム情報と診療情報との統合解析などの新しい手法の開発も必要です。

また、診療では患者から得られる大変多くの診療情報を総合的に分析して意思決定をし、診療(診断、検査、治療)を行います。この診療の過程、つまり診療という医療者の高度な知的活動そのものを、IT(情報技術)で支援し、コンピュータシステムにより効率化することも医療情報学の目標です。こうした診療の効率化は医療の質、安全性の向

医用知能情報システム基盤の研究



上にも繋がります。

2.担当科目、課題研究テーマ

医療情報システム学(講義・実習)を担当します。主な研究テーマは、電子カルテシステム(EHR)における情報表現の標準化の研究、臨床医学知識の計算機モデルや知識活用に関する研究、医療情報システムのデータ管理や医療データベースの活用に関する研究、医療人工知能の医療への応用、モバイル医療、特に生活習慣病管理、ゲノム医療情報システムなどです。詳しくは <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/medinfo/> をご覧ください。

“Healthcare Informatics” aims to reform healthcare systems by applying advanced information technology. The department develops innovative methods that are applicable in the boundary area of healthcare and information science, establishes infrastructures where medical information is utilized effectively, and applies knowledge acquired through these efforts to medical and healthcare field.

岩瀬博太郎 教授 / 榎野 陽介 准教授

Iwase, Hirotarō / Makino, Yohsuke



1.法医学とは？

法医学は法が適正に執行されるために医学的に何ができるかを考え、実践する学問であり、国民の権利を守る医学であるといつてよいだろう。古典的には、解剖及び薬毒物検査等の諸検査を通して、死因を極力正確に判定することで、犯罪見逃しの防止、事故再発の抑止に資し、それによって国民の権利維持を行ってきた。近年においては、死因究明のみならず、虐待を受けた小児等の診察を行うなど生体への関与も法医学の行うべき活動とされるようになってきている。

2.担当科目、課題研究テーマ

法医学・医事法の講義・演習を担当している。

当教室では、千葉大学と連携し、死因究明に関する業務や被虐待児童の生体診察等の業務を行っている。死因究明に関しては、旧来から行われてきた、解剖及び組織学的検索のみでなく、危険ドラッグ等も含む薬毒物検査や、死後CT検査等も行っている。研究面に関しては、LC-MS等を用いた薬毒物検査法の開発に関する研究や、CT検査を用いた死因診断法の研究、身元特定方法の開発に関する研究などを行っている。また、死因特定において得られる様々な検査データについてのデータベースを構築し、

それを利用した研究も行っている。

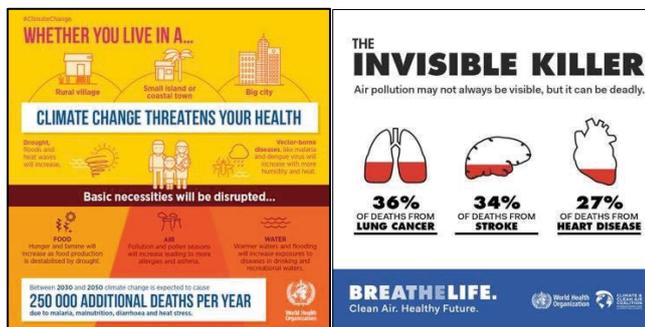
課題研究のテーマについては、こうした当教室で実施している業務及び研究をベースに、学生の要望を聞きながら設定する予定である。

Forensic medicine is an academic discipline that thinks about what medicine can do for the law to be properly used.

In collaboration with Chiba University, we conduct death investigations and physical examinations for children suspected abuse (clinical forensic medicine). Regarding the death investigation, we are performing not only conventional anatomical and histological examinations, but also toxicological examinations even covering new psychoactive drugs and postmortem CT scans. We are conducting research related to these relatively new death investigation methods. In addition, we have constructed a database on various examinations obtained in our death investigation practices and performing various researches using it.

金 允姫 准教授

Kim, Yoonhee



Climate Change, Air Pollution, and Human Health (infographics by WHO)

Introduction of faculty

The Department of Global Environmental Health (GEH) aims to study the relationships between the environment and human health and to produce well-educated professionals with the ability to undertake epidemiological research.

Research

Our research interest includes climate change and variability, air pollution, and human health across multiple countries in environmental epidemiology. We address the scientific questions how the environmental factors are associated with health outcomes and potential socio-economic determinants that modify the exposure-response associations. GEH has multiple collaborations with both domestic and international colleagues. Ongoing projects we are involved in include 1) Health Risk Assessment of Climate Change and Air Pollution (Global Research Laboratory), 2) Global Perspectives of Seasonal Changes of Suicide and Associations between Suicide and Weather, and 3) Establishment of an Early

Warning System for Infectious Diseases in Southern Africa Incorporating Climate Predictions.

Education

We provide an introductory course, Environmental Health, for MPH students. It is expected that the students would understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects by taking the course.

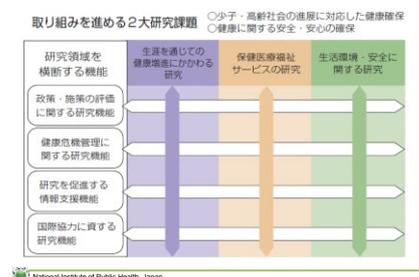
Master thesis research topics

Prospective master students in GEH will examine the risk of mortality (for both all-cause and cause-specific) associated with weather factors (e.g., temperature) and/or outdoor air pollutants using single- and multi-country data.

福田 敬 准教授

Fukuda, Takashi

国立保健医療科学院における調査研究の基本的な考え方



1.「保健医療科学」とは？

「保健医療科学」講座は国立保健医療科学院との連携講座です。国立保健医療科学院は、保健、医療、福祉及び生活環境に関する厚生労働行政施策の推進を図るため、地方自治体職員等の人材育成を実施するとともに、これらに関する調査及び研究を行っています。これらを通じ、わが国の公衆衛生の向上に寄与することが使命です。主に「生涯を通じての健康増進に関わる研究」「保健医療福祉サービスに関する研究」「生活環境・安全に関する研究」の3分野について研究活動に取り組んでいます。

保健医療科学連携講座では、厚生労働行政に資する施策のうち、とくに保健医療事業の経済的評価とその政策応用に関する研究に取り組みます。国民医療費が増加を続ける要因として、人口の高齢化だけでなく、医療技術等の進歩が挙げられます。もちろん技術進歩により延命できたり、QOLが改善したりといった多くのメリットがあります。一方、これにより医療費が増え続けると、国民皆保険制度を維持していくためには、より効率的な医療提供を考える必要があります。その一つの考え方が、保健医療の経済的評価とその応用です。対象としては、医

薬品・医療機器・医療技術といった保険診療における技術に加え、保健指導やワクチン接種、がん検診といった予防施策、さらに介護等も範疇に入ります。

2.担当科目、課題研究テーマ

保健・医療・介護等の費用対効果の評価とその政策応用に関する研究を課題研究のテーマとします。この中には分析手法に関する研究や諸外国の制度に関する研究なども含まれます。

3.本分野の教育・研究活動の詳細

国立保健医療科学院に関する詳細についてはHP<<https://www.niph.go.jp>>をご覧ください。また本講座での研究にご関心がある方は福田までご連絡ください (fukuda.ta@niph.go.jp)。

Department of Public Health Science is a collaborating unit with the National Institute of Public Health (NIPH). NIPH implements training for local government employees, etc. and related surveys and research. Main research topic of the department is economic evaluation of health care and its application to the health policy.

教育課程等の概要

(H30.4.1 現在)

教育課程等の概要									
(医学系研究科公共健康医学専攻)									
科目区分	授業科目の名称	単位数		授業形態			専任教員等の配置		
		必修	選択	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師
疫学保健学系科目	疫学研究と実践[必修*1]	2		○			1		
	予防保健の実践と評価		2	○			1		
	医学データの統計解析	2		○			1		
	医学統計学演習		2		○			1	
	医学研究のデザイン[必修*1]	2		○			1		
	臨床疫学		2	○			1		
	臨床疫学・経済学演習		2		○		1		
	保健医療経済学		2	○			1		
	医療コミュニケーション学		2	○			1		
	医療コミュニケーション学演習		2		○		1		
	医療技術評価学演習		1		○		1		
	医療経営学演習		2		○		1		
	臨床医学概論		1		○		1		
	医学研究とCDISC標準		1		○		1		
	がん疫学		1		○		1		
小計(15科目)		6	20		-		5	1	
行動社会医学系科目	精神保健学Ⅰ[必修*2]	2		○			1		
	精神保健学Ⅱ		2	○			1		
	健康教育学[必修**2]	2		○			1		
	健康社会学		2	○			1		
	健康増進科学		2	○				1(1)	
	医療倫理学Ⅰ[必修*3]	2		○			1	1	
	医療倫理学Ⅱ		2	○			1	1	
	社会と健康Ⅰ[必修*3]	2		○				1	
	社会と健康Ⅱ		2	○				1	
	産業保健の理論と実践 [必修*5]	2		○			1		
	保健医療人材育成学		2	○					1(1)
学習者評価学		2	○					1(1)	
日本の医療と地域保健		2	○						
小計(13科目)		10	16		-		3	2	1(1)
医療科学系科目	健康医療政策学[必修*4]	2		○			1	1	
	医療情報システム学[必修*4]	2		○			1		
	医療情報システム学実習		1			○	1		
	法医学・医事法学[必修*3]	2		○			1	1	
	法医学・医事法学演習		2		○		1	1	
	医療安全管理学		1	○			1(1)	1(1)	
	医療安全管理学実習		0.5			○	1(1)	1(1)	
	健康危機管理学		1	○			1		
	保健行政・健康危機管理学実習		2			○	1		
	環境健康医学 [必修**5]	1		○				1(1)	
	公共健康情報学		2	○			1		
公共健康情報学実習		1			○	1			
小計(12科目)		7	10.5		-		5(1)	3(3)	
共通科目	インターンシップ		2			○	1		
	公共健康医学特論		2	○			10	6(3)	
	課題研究	6			○		13(1)	6(3)	1(1)
小計(3科目)		6	4		-		13(1)	6(3)	1(1)
合計(43科目)		29	50.5		-		13(1)	6(3)	1(1)

※ ()内は兼任教員等を示し、内数である

学位又は称号	公衆衛生学修士(専門職)	学位又は学科の分野	公衆衛生学	
卒業要件及び履修方法		授業期間等		
(1) 標準修業年限 2 年(2 年コース)の場合 必修科目及び選択科目を 30 単位以上履修することとし、必修科目は 6 科目 11 単位または 12 単位及び課題研究 6 単位を履修する。 (2) 標準修業年限 1 年(1 年コース)の場合 1 年間で必修科目及び選択科目を 30 単位以上履修することとし、必修科目は 6 科目 11 単位または 12 単位を履修し、課題研究は選択科目とする。 ※(1)(2)ともに必修科目のうち、*印のあるものについては、同じ番号を付された授業科目から 1 科目履修すればよい。		1 学年の学期区分	4 期	
		1 学期の授業時間	13 週	
		1 時限の授業時間	105 分	

授業科目の一覧

※ 疫学保健学系・行動社会医学系・医療科学系・共通の4つの科目区分があります。

□ 疫学保健学系	
授業科目名 の名称	講義等の内容
疫学研究と実践	疫学研究方法論の基礎を講義すると同時に、実践する際の問題点とその克服について、事例研究(ケーススタディ)を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り:疫学的思考、因果関係の立証、疾病発生の把握と信頼性の確保、疫学研究デザイン入門、バイアスと誤差的バラツキ、バイアスとくに交絡の制御、統計解析の役割、研究倫理と同意・個人情報保護、遺伝疫学、研究成果のフィードバックと予防保健など。
予防保健の実践 と評価	職域・地域などをフィールドとして、健診結果や疫学研究の成果を成員にフィードバックすることにより予防保健につなげる実践活動について、主に事例研究(ケーススタディ)を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り:健康目標の設定とその評価、実施組織の構築と役割・費用分担、成員の合意形成と情報のフィードバック・コミュニケーション、プライバシーと個人情報保護、職域保健活動の事例(産業医の役割)、地域保健活動の事例(保健師の役割)など。
医学データの統 計解析	医学研究のデザイン、統計的仮説検定と信頼区間、サンプルサイズ設計、分割表データの解析、回帰と相関、層別解析、モデルに基づく解析、生存時間解析、多変量解析諸手法などについて教え、医学データの統計解析に必要な基礎知識、ならびに応用能力を身に付けさせる。
医学統計学演習	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて SAS・S(あるいは R)で演習を行う。また仮の医学研究(疫学研究か臨床試験研究)を設定し、グループ実習により統計解析計画書の作成演習を行い、その成果に対して討論(ディベート)を通じて理解を深める。
医学研究のデザ イン	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。主な内容は以下の通り: 研究デザインの分類と特徴、測定の標準化、疫学研究のデザイン(バイアスの制御と症例数決定など)、臨床試験の方法論(ランダム化と割り付け、エンドポイントの設定、中間解析、統計解析の原則、症例数決定、ICH ガイドラインなど)、標本調査入門、プロトコルの作成、品質管理と品質保証、データマネージメント、論文作成と CONSORT 宣言、研究費用の算定と研究の運営など。
臨床疫学	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。
臨床疫学・経済 学演習	学生各人が、具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生的関心に基づき、文献検索と仮説構築を行い、研究の proposal writing(研究の背景と目的の提示、データ収集の定式化並びに分析計画、研究費の予算書作成など)ができる実践的なスキルを身につける。さらに医学英語論文の書き方の基本を学ぶ。
保健医療経済学	医療経済学の基礎知識を身につけるとともに、実証的な医療経済学分析の方法論についての基本を学ぶ。さらに医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。
医療コミュニケー ション学	臨床現場における対人コミュニケーションからメディアによるコミュニケーションまで、医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の領域を概観し、その基礎的な理論と実践を体系的に学習する。ヘルスコミュニケーションにおける理論体系、実践的方法論、コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、ヘルスコミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う。

医療コミュニケーション学演習	医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の実践に必要な演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践方法論に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場(医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等)でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。
医療技術評価学演習	医療経済評価及びアウトカム評価の実践能力を身に付けるために、具体的な医療技術や薬剤を事例として取り上げ、グループ毎に評価研究のステップに従って、課題の設定、決定樹やマルコフモデルの作成、臨床結果及びコスト情報の収集、費用対効果の算出、感度分析などの一連の経済評価手法を学ぶ。
医療経営学演習	臨床経験3年以上の医療従事者を中心に、病院経営の基本的姿勢や考え方について初歩的理解を得ることを到達目標とする。コア概念(財務・管理会計、組織論・人材管理、戦略論、リスクマネジメント)について基本知識を系統講義で確認した後、ケースシナリオを用いたグループディスカッションを通じ、それらを実践知化する。
臨床医学概論	医学部医学科の初歩レベルの臨床医学に関する知識のエッセンスを学ぶ。系統講義を通して、解剖・生理、診断・治療の要点を学ぶ。
医学研究とCDISC 標準	本講義では、CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) 標準についての概要を解説する。CDISC 標準は、日本、米国、EUにおいて、規制当局への新薬治験データの申請のデータ標準として採用されることが決まっており、治験以外の一般の医学研究のデータ収集、データ交換、アーカイビング等のためにも世界中で幅広く活用されると予想されている。
がん疫学	「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、近年注目されているゲノム疫学手法、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やその普及実装のための研究、がん検診の考え方、について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。

□ 行動社会医学系

授業科目名の名称	講義等の内容
精神保健学Ⅰ	前半では、わが国と世界の精神疾患の疫学、精神健康評価の方法論、科学的根拠に基づいた地域、職場、学校における精神保健の第一次、第二次、第三次予防の方法論について学ぶ。後半は、科学的根拠の精神保健の実践への応用について事例に基づいた双方向講義を行い、最後にグループワークにより新しい精神保健対策を立案する小演習を行う。
精神保健学Ⅱ	職場のメンタルヘルスについて、その歴史と現状、関連する法規、ガイドラインおよび制度、職業性ストレスの基礎理論、科学的根拠に基づく有効な第一次、第二次、第三次予防の方法、計画立案およびプログラムの評価方法について学ぶ。事業場の特性を踏まえた対策立案について事例研究(ケーススタディ)を行い、具体的な進め方について討論(ディベート)する。
健康教育学	本講義の前半では、健康関連行動に関するマイクロならびにマクロレベルの理論を系統的に紹介し、これらの理論の背景となる人間像や社会観を批判的に読み解くとともに、それぞれの長所・限界点を議論していく。後半は地域・職場・学校などの具体的な場において展開する「健康づくり」活動についてディスカッションを通じて理解を深めるとともに、理論と実践の溝を埋める作業を促す。
健康社会学	医学的な視座を相対化し、健康・疾病・医療・公衆衛生が社会においていかなる意義・役割・機能を有しているのかを再検討するための素地として、社会学の諸理論のうち医学・保健に関するトピックを取り上げる。
健康増進科学	地域・職域の健康問題に関する社会的、物理的情報を収集・分析・評価する能力を事例研究によって高め、その結果から適切な健康問題解決プログラムを立案する能力を少人数討論の中で養う。具体的には、疾病予防・行動変容プログラムの企画・実施・評価、行動科学理論の基礎、集団アプローチと個別アプローチ、支援環境に関する各種モデルなどを含む。

医療倫理学Ⅰ	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論・歴史、インフォームドコンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論(ディベート)を行う。
医療倫理学Ⅱ	「医療倫理学Ⅰ」で扱った内容をさらに深く教授する。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサルテーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論を行う。
社会と健康Ⅰ	教育・経済状況(貧困)・社会的孤立・住環境・就労環境・社会的ネットワークなど、健康に影響を与える社会的な要因(Social Determinants of Health: SDH)について、その理論的背景・実証研究・現時点の実証および実践上の課題について鳥瞰する。
社会と健康Ⅱ	「社会と健康Ⅰ」で学んだ知識をベースに、社会環境にアプローチする健康格差対策の進め方について実践的に学ぶ。既存の実践理論モデル、介入、政策の事例を紹介し、その利点、欠点を考察する。初回講義で各人にテーマを割り振り、順次発表してもらい、ディスカッションする。
産業保健の理論と実践	産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を教授すると同時に、事例分析や演習を通じて産業保健を職場で遂行するための実践的技術の基礎を習得する。
保健医療人材育成学	保健・医療分野の人材育成(human resource development for health, health professional education)について、教育や学習に関連した理論に基づいて、全体講義と少人数講義を通して学ぶ。
学習者評価学	保健・医療分野の人材育成において、資格認定や学習内容の修得と関連する学習者評価(learner assessment)に関して、統計学や心理測定学(psychometrics)の理論を含めて学ぶ。
日本の医療と地域保健	英語により日本の保健医療制度およびサービスについて概説し、日本の保健医療制度をグローバルな視点から学ぶ機会を提供すると同時に、学生の保健医療制度に関する国際的なコミュニケーション能力を向上させる。

□ 医療科学系

授業科目名の名称	講義等の内容
健康医療政策学	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習するとともに、実際の事例を通じて実際を理解する。
医療情報システム学	医療におけるデータ管理、データのコード化と分類、情報技術の基礎と標準化、データ処理技法、医療情報システムとネットワーク技術の基礎と運用、医療における情報保護やセキュリティー、医療情報システムの管理などについて講義する。
医療情報システム学実習	医療におけるデータ管理とデータのコード化手法、データ処理技法、医療情報システムの設計、管理手法を実際の病院情報システムをフィールドとして実習する。
法医学・医事法学	異状死、特に医療関連死の事例・判例につき、法的背景、社会的背景を中心に講義・討論形式で進める。実際の解剖・検案・鑑定に参加して学ぶ他、法廷見学・討論をする。事例・判例セミナーを定期的開催する。
法医学・医事法学演習	死因究明の法・制度に関する日本や諸外国の問題点を、遺族・医師などに対する意識調査、文献調査、現地調査(フィールドワーク)などを通じて分析し、新しい法・制度を提案する演習を行う。また、担当教員が関わる厚生労働省「医療関連死の死因調査に関するモデル事業」の実務を通じて、死因調査実務担当者(看護師、医師、コーディネータ)・教育担当者を想定した実習を行う。
医療安全管理学	医療現場におけるヒヤリハットや医療事故などに関わるリスク要因の探索、医療安全促進に向けたシステム作り、医療事故に対する対応や過去の訴訟事例などについて、実践的な討論(ディベート)などを通して、医療安全管理の実際を身に付ける。

医療安全管理学 実習	医療現場における実際のヒヤリハット事例や医療安全促進に向けたシステム作り、医療事故に対する対応などについて、実際の医療機関で資料を収集・分析することにより、実践的な分析能力、対策立案能力を身に付ける。
健康危機管理学	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の事例、健康危機突発事の原因同定と対応策、リスクコミュニケーション、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。
保健行政・健康 危機管理学実習	原因不明の健康危機事例やその他の保健行政に関して、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて、保健行政の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、健康危機管理やその他の保健行政の基本的対応を身に付ける。
環境健康医学	ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいる。これら有害物質による生体影響の同定、量反応関係、有害影響が現れる病態発生のメカニズムとその影響を初期に診断するためのバイオマーカー、環境防御対策などについての基本的な知識と考え方を身に付ける。
公共健康情報学	公共健康医学分野における情報処理の基礎を習得する。特に地理情報システム、感染症サーベイランスシステム、疾患登録システムと関連する情報処理技術に重点を置く。
公共健康情報学 実習	Rを用いた地理情報システムを例に公共健康情報処理に必要な情報処理技術を身に付ける。

□ 共通	
授業科目名 の名称	講義等の内容
インターンシップ	公衆衛生の現場(公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関)などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。
公共健康医学特論	公共健康医学専攻の12分野と外部講師から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める。
課題研究	指導教員のもとで、特定の研究課題について現地調査(フィールドワーク)、資料収集、分析・統計解析、論文作成などの実践を通して、高度な問題解決能力を身に付ける。

2011 年度～2018 年度受験・合格者状況

2010 年 8 月実施入試の結果

受験者数		83(4)
合格者数		33(2)
	内訳:	
	1 年コース	12(0)うち医師11(0)
	2年コース	21(2)うち医師 3(0)
2011 年度合格者合計		33(2)
2011 年度入学者合計		31(2)

2011 年 8 月実施入試の結果

受験者数		84(5)
合格者数		32(2)
	内訳:	
	1 年コース	13(0)うち医師13(0)
	2年コース	19(2)うち医師 2(0)
2012 年度合格者合計		32(2)
2012 年度入学者合計		30(2)

2012 年 8 月実施入試の結果

受験者数		103(1)
合格者数		35(0)
	内訳:	
	1 年コース	13(0)うち医師12(0)
	2年コース	22(0)うち医師 6(0)
2013 年度合格者合計		35(0)
2013 年度入学者合計		32(0)

2013 年 8 月実施入試の結果

受験者数		102(5)
合格者数		33(1)
	内訳:	
	1 年コース	12(0)うち医師10(0)
	2年コース	21(1)うち医師 2(0)
2014 年度合格者合計		33(1)
2014 年度入学者合計		30(0)

※ カッコ()内は外国人の内数

2014年8月実施入試の結果

受験者数		91(8)
合格者数		32(3)
	内訳:	
	1年コース	12(0)うち医師11(0)
	2年コース	20(3)うち医師7(1)
2015年度合格者合計		32(3)
2015年度入学者合計		29(3)

2015年8月実施入試の結果

受験者数		77(3)
合格者数		33(3)
	内訳:	
	1年コース	12(1)うち医師7(1)
	2年コース	21(2)うち医師6(0)
2016年度合格者合計		33(3)
2016年度入学者合計		32(3)

2016年8月実施入試の結果

受験者数		92(3)
合格者数		34(0)
	内訳:	
	1年コース	12(0)うち医師11(0)
	2年コース	22(0)うち医師7(0)
2017年度合格者合計		34(0)
2017年度入学者合計		33(0)

2017年8月実施入試の結果

受験者数		104(5)
合格者数		32(2)
	内訳:	
	1年コース	12(1)うち医師11(1)
	2年コース	20(1)うち医師5(0)
2018年度合格者合計		32(2)
2018年度入学者合計		31(2)

※ カッコ()内は外国人の内数

公衆衛生学に関する博士課程について

東京大学大学院医学系研究科の中には、公衆衛生学に関する以下の博士課程があります。公衆衛生学を専門に学び博士の学位の取得を希望する場合には、公共健康医学専攻(専門職学位課程)を修了後に、これらの大学院に進学することができます。公共健康医学専攻(専門職学位課程)の教員がこれらの博士課程の教員を兼ねている場合も多く、その場合には専門職学位課程から博士課程にかけて連続的に教育を受けることができます。

○社会医学専攻 医学博士課程

教育研究上の目的	社会医学専攻においては、人間集団を対象として、環境、社会および情報等の観点から、疾病の原因究明、疾病の予防および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、社会医学を構成する諸分野の中核を担う人材を養成することを目的とする。(医学系研究科ウェブサイトから)
修業年限、学位	社会医学専攻は4年生の医学博士課程であり、修了すると博士(医学)が授与されます。
募集人員	14名
主な出願資格	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する6年の課程を卒業(卒業見込) ・大学院修士課程・専門職学位課程を修了(修了見込) ・外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了(修了見込) ※出願資格については、各年度の募集要項にて確認すること。
分野(担当教員)	分子予防医学分野(選考中) 公衆衛生学分野(小林廉毅教授、豊川智之准教授) 法医学分野(岩瀬博太郎教授、榎野陽介准教授) 医療情報学分野(大江和彦教授) 健康環境医工学分野(村上 誠教授、大迫誠一郎准教授) 医療コミュニケーション学分野(木内貴弘教授) 臨床情報工学分野(小山博史教授) 臨床疫学・経済学分野(康永秀生教授) 社会予防疫学分野(佐々木敏教授) 精神保健学分野(川上憲人教授、西 大輔准教授) 保健社会行動学分野(橋本英樹教授、近藤尚己准教授) 医療倫理学分野(赤林 朗教授、瀧本禎之准教授) がん政策科学分野(連携)(東 尚弘連携教授) がん疫学分野(連携)(選考中) がんコミュニケーション学分野(連携)(選考中)
専攻ウェブサイト	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/departments/graduateschool.html 「社会医学専攻」の情報をご覧ください。
学生募集要項について	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html 「医学博士課程」の情報をご覧ください。

○健康科学・看護学専攻 博士後期課程(パブリックヘルスプログラム)

教育研究上の目的	<p>健康科学・看護学専攻は、看護学系講座(予防看護学講座、臨床看護学講座)と健康科学大講座とからなる。本専攻は、出生前から人生の最期に至るまで、ライフサイクルの各期に応じた発達支援・健康増進、疾病の予防と回復、支援環境整備に寄与する研究を推進する。同時に、これらの課題を研究し、改善していける教育・研究者ならびに高度専門職業人を育成することを目的とする。(医学系研究科ウェブサイトから)</p> <p>注:健康科学・看護学専攻博士後期課程は、パブリックヘルスプログラム(健康科学講座)と看護学講座から構成されています。パブリックヘルスプログラムでは公衆衛生学(公共健康医学)に関する教育研究を行います。</p>
修業年限、学位	健康科学・看護学専攻博士後期課程は3年制の大学院であり、修了すると博士(保健学)が授与されます。
募集人員	10名(看護学講座と合わせて25名)
主な出願資格	<p>大学院修士課程を修了(修了見込)</p> <p>※出願資格については、各年度の募集要項にて確認すること。</p>
分野(担当教員)	<p>医療倫理学(赤林 朗教授、瀧本禎之准教授)</p> <p>健康増進科学(空席)</p> <p>健康学習・教育学(橋本英樹教授)</p> <p>健康社会学(近藤尚己准教授)</p> <p>精神保健学(川上憲人教授、西 大輔准教授)</p> <p>生物統計学(松山 裕教授)</p> <p>疫学・予防保健学(松山 裕教授(兼)、大庭幸治准教授)</p> <p>社会予防疫学(協力講座)(佐々木敏教授)</p> <p>保健医療情報学(協力講座)(大江和彦教授、木内貴弘教授)</p> <p>精神保健政策学(連携講座)(金吉晴連携教授)</p>
専攻ウェブサイト	<p>http://hsn.m.u-tokyo.ac.jp/</p> <p>http://www.m.u-tokyo.ac.jp/departments/graduateschool.html</p> <p>「健康科学・看護学専攻」の情報をご覧ください。</p>
学生募集要項について	<p>http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html</p> <p>「博士後期課程」の情報をご覧ください。</p>

Faculty members (as of May 1, 2018)

Division	Department	Professor	Associate professor	Lecturer
Epidemiology and Health Sciences	Biostatistics	Yutaka Matsuyama Hirohisa Imai+ Daisuke Koide+	Koji Oba* Akihiro Hirakawa+	Kentaro Sakamaki+
	Social and Preventive Epidemiology	Satoshi Sasaki		
	Clinical Epidemiology and Health Economics	Hideo Yasunaga	Taisuke Jo+	
	Health Communication	Takahiro Kiuchi		
	Cancer Epidemiology			
Behavior Health Sciences	Mental Health	Norito Kawakami	Daisuke Nishi	Kotaro Imamura+
	Health Sociology and Health Education		Naoki Kondo	
	Health and Social Behavior	Hideki Hashimoto		Daisuke Takagi
	Health Promotion Science		Yoshiyuki Takimoto*	
	Biomedical Ethics	Akira Akabayashi	Yoshiyuki Takimoto	Eisuke Nakazawa Yuzaburo Uetake*
	Human Resource Development for Health			Hiroataka Onishi*
Health Services Sciences	Health Policy	Yasuki Kobayashi	Satoshi Toyokawa	
	Clinical Information Engineering	Hiroshi Oyama		
	Healthcare Informatics	Kazuhiko Ohe	Kayo Waki** Takeshi Imai*	Hidenao Atarashi Yusuke Ida+ Katsuya Tanaka* Yoshimasa Kawazoe*
	Forensic Medicine and Medical Law	Hirotarō Iwase	Yohsuke Makino	
	Global Environmental Health		Yoonhee Kim	
	Public Health Science		Takashi Fukuda*	
	Environmental Health Sciences		Seiichiroh Ohsako*	

* Adjunct faculty members. + Project faculty members

Outline of the curriculum

Subject	Description	Credits
Epidemiology Research & Practice	In addition to lectures on basic epidemiological research methodologies, students learn through case studies of the problems which arise when putting these methodologies into practice, as well as ways to overcome them. The core themes of this subject are: epidemiological thought; demonstrating causative relationships; understanding disease onset and ensuring reliability; introduction to epidemiological research design; bias and error variance; controlling bias, particularly confounding; role of statistical analysis; research ethics & consent/protection of privacy; genetic epidemiology; research outcome feedback; and preventive medicine etc.	2
Preventive Health Practice & Assessment	Students learn primarily through case studies about practical initiatives linked to occupational & community preventive health based on member feedback of medical checkup results and epidemiology research outcomes. The core themes of this subject are: setting and evaluation of health objectives; development of implementing organizations & allocation of roles/costs; obtaining member consent & information feedback/communication; privacy & protection of personal information; occupational health initiative case studies (role of occupational health physicians); community health initiative case studies (role of public health nurses) etc.	2
Statistical Analysis of Medical Data	By learning about medical research design, statistical hypothesis testing & confidence intervals, sample size design, contingency table data analysis, regression & correlation, stratified analysis, model-based analysis, survival analysis, and multivariate analysis techniques, students acquire the basic knowledge and practical abilities required for statistical analysis of medical data.	2
Medical Statistics Exercise	Students learn about the main statistical methods covered in 'Statistical Analysis of Medical Data' using actual cases with SAS/S (or R) statistical software. Students also create hypothetical medical research (epidemiology or clinical study research) and formulate a statistical analysis plan through a group exercise, then improve their understanding of the results through debate.	2
Medical Research Design	This subject comprises lectures on epidemiological research & clinical trial design and actual research management, as well as case studies. The aim is to equip students with the basic knowledge required to understand studies published in key journals, and to hone their protocol drafting skills as well as the ability to participate in a research office through teamwork. The core themes of this subject are: research design types & characteristics; standardization of measurements; epidemiological research design (bias control & sample size determination etc.); clinical trial methodology (randomization & assignment, endpoint determination, interim analysis, statistical analysis principles, sample size determination, ICH guidelines etc.); introduction to sample surveys; protocol preparation; quality control & quality assurance; data management; drafting of academic papers & CONSORT statements; research cost estimation and research management etc.	2
Clinical Epidemiology	Subjects of clinical epidemiological studies exist in clinical practice. Researchers must find out research questions in clinical practice, make a study hypothesis and an appropriate study design, make statistical analyses with available data and make clinically valid interpretation of the results. The course provides theories and practical skills of clinical epidemiology that are essential for implementing clinical studies.	2
Clinical Epidemiology Exercise	The course provides hands-on training to help students write their research protocols for fund application through lectures and tutorials. The course also provides how to write medical literature.	2
Healthcare Economics	The course provides basic knowledge about health economics and basic methods for health economic analyses. Through lectures and group debates, students learn how to apply theories of health economics to actual health policy issues.	2
Health Communication	The course overviews major areas and topics of health communication including interpersonal communication in healthcare settings to media communication, and introduces current research, practice and education in health communication. Students learn basic theories and methodologies as well as methods of analysis and evaluation in health communication.	2
Seminar in Health Communication	Students practice skills for health communication to learn practical applications of the theories and methodologies introduced in Health Communication lecture, and to learn how to make effective health communication in various health settings including healthcare institutions, government, academic and educational institutions, patient organizations, and mass media.	2

Subject	Description	Credits
Seminar in Healthcare Technology Assessment	This three-day intensive seminar will provide hands-on training to conduct health technology assessment, e.g. measurement of direct and indirect cost, benefit as is expressed in quality adjusted life years and utility, and modeling decision trees, and calculating incremental cost-effectiveness ratio with sensitivity analysis.	1
Seminar in Healthcare Organization Management	The course is composed of lectures on accounting, human resource management, risk control, and strategic building, complemented by case method using a case scenario of actual hospital management. Students with clinical experience >3 years will be accepted.	2
Introduction to Clinical Medicine	The course will provide lectures on basic knowledge about clinical medicine including anatomy, physiology, diagnosis and treatment.	1
Medical research and CDISC standards	The course provides the overview of CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) Standards, which are determined be obligatory to regulatory new drug submission in Japan, U.S.A, and EU, and will be widely used for medical research data collection, exchange, archiving, etc. in medical research in general besides regulatory clinical research around the world.	1
Cancer Epidemiology	This subject aims to provide essential expert knowledge in the field of cancer epidemiology. The topics include descriptive epidemiology and cancer registry methodology; risk factors; genomic epidemiology, translational research toward health policy, such as systematic reviews, meta-analyses and pooled analyses; cancer burden; Implementation and dissemination science; and evidence-based cancer prevention and cancer screening guidelines.	1
Mental Health I	The half of the course provides epidemiology of mental disorders in Japan and other countries, methodology to assess mental health, and current evidence for primary, secondary & tertiary prevention of mental disorders in the community, including workplace and schools. The latter half of the course provides a series of interactive lectures on implementation of available evidence in improving mental health based on practical cases, followed by a group work to develop a new mental health program.	2
Mental Health II	Students learn about occupational mental health, its history & present status, relevant legislation, guidelines & systems; basic theory of occupational stress; evidence-based effective primary, secondary & tertiary prevention methods, planning, and program evaluation methods. After examining case studies on mental health policy planning based on workplace characteristics, students engage in debate on specific ways to promote said policies.	2
Health Education	This first half of the course provides theoretical basis for understanding health-related behaviors and designing health educational intervention programs at micro and macro levels. Through in-class discussion, students will critically read a presumed view of human and society, strength, and limitations of each theory. The latter half of the course applies theories to real settings in workplace, community, healthcare settings, and school.	2
Health Sociology	The course provides a showcase of sociological theories of health and medicine, to encourage students to critically consider roles and meanings of health, illness, and medical/public health activities in societal context.	2
Health Promotion Science	In this subject, students learn and develop analytical and evaluation skills by collecting social and physical information on community and work-site health issues and by examining case studies. Students subsequently develop the skills to plan effective programs addressing health issues in small-group debates. Specific areas covered include: planning, implementation and evaluation of health promotion programs for life-style related disease and behavioral modification; basic theory of behavioral science; individual and population approaches; and various models used to create supportive environments.	2
Biomedical Ethics I	Students consider ethical & philosophical approaches which form the basis of ethical judgments in public health policymaking as well as clinical practice. Areas covered include: introduction to biomedical ethics & history; political philosophy; allocation of medical resources; and informed consent. These topics are addressed in lectures and small-group debates.	2

Subject	Description	Credits
Biomedical Ethics II	This subject expands upon the topics covered in 'Biomedical Ethics I'. Students read and interpret important literature in the fields of law & morality, rights theory, confidentiality, medical futility, and meta-ethics.	2
Society and Health I	This lecture series provides a broader context of social determinants of health (SDH) including education, poverty, social isolation, living arrangements, social networks, income inequality, and social capital. Currently available theoretical and empirical evidence on SDH will be reviewed and its strengths and challenges will be discussed.	2
Society and Health II	This course expands the discussions in Society and Health I to more practical and political contexts. Course activities include case-oriented discussions, students' group-based presentations on 5 topics on health equity issues and a health impact assessment workshop.	2
Theory and practice of occupational health	This class provides updated information of recent trends and global perspectives in occupational health. Also students learn basis of practical skills to pursue occupational health activities at workplace, through case studies and exercises.	2
Human Resource Development for Health	Participants will be able to learn human resource development for health (health professional education) based on principles related with education and learning through plenary and small group discussion.	2
Assessment in Health Professional Education	In human resource development for health areas, participants will be able to learn learner assessment, which is closely related with licensing and mastery of learning contents, including principles of statistics and psychometrics.	2
Health Care and Community Health in Japan	This class will provide an overview of health care system and services in Japan, to provide opportunities of viewing health care system and services in Japan from a global perspective and to promote the ability of students on international communication on the topics of health care system and service.	1
Health Policy	Using several cases related to healthcare policymaking & management, such as prevention and health promotion, access to healthcare, health insurance reimbursement systems, and health policy-making process, this subject provides students with a systematic understanding of various stakeholder perspectives, relevant social systems, funds procurement, and their management.	2
Healthcare Informatics	This subject consists of lectures on healthcare data management, data coding & classification, information technology basics & standardization, data processing techniques, healthcare information system & network technology basics and operation, healthcare information protection & security, and healthcare information system management etc.	2
Healthcare Informatics Exercise	The exercise covers practical healthcare data management & data coding techniques, data processing techniques, and healthcare information system design & management techniques, based on actual hospital information systems.	1
Public health informatics	Students learn the basics of public health informatics. To that end, the subject focuses on geographical information system, infection surveillance system and disease registration system associated information processing techniques.	2
Public health informatics Exercise	In this exercise, students learn about practical public health information engineering through case studies on geographical information system using R.	1
Forensic Medicine & Medical Law	This subject comprises lectures and debates focusing on the legal & social contexts of abnormal fatalities, particularly cases/precedents of death related to medical care. In addition to participating in an actual autopsy, postmortem examination & evaluation, students visit the law courts and engage in debates.	2
Forensic Medicine & Medical Law Exercise	In this exercise, students analyze the issues relating to coroner's inquest methods & systems in Japan and overseas through surveys of the deceased's relatives and physicians, literature searches, and fieldwork etc., and propose new methods and systems. The exercise also leverages the lecturer's practical experience on the Ministry of Health Labour & Welfare's 'Model Project on Inquests into Medical Care-related Deaths' with a role play assuming the roles of inquest personnel (nurses, physicians & coordinators) and education supervisors.	2

Subject	Description	Credits
Medical Safety Management	In this subject, students become acquainted with actual medical safety management by investigating risk factors related to potential incidents & medical accidents in clinical practice, and engaging in practical debates on the development of systems for the promotion of medical safety as well as responses to medical accidents and past medical malpractice suits.	1
Medical Safety Management Exercise	Students acquire practical analytical & policy planning skills by gathering & analyzing materials from actual healthcare facilities relating to potential incidents in clinical practice, development of systems for the promotion of medical safety, and responses to medical accidents.	0.5
Public Health Preparedness	This subject teaches students the basics of responding to health risk outbreaks through case studies of typical past cases on: field epidemiological survey methods to deal with health risks such as a new type of influenza, SARS, and bioterrorism; public health surveillance; identification of the causes of disease outbreaks; and planning, implementation & assessment of countermeasures.	1
Health Administration & Public Health Preparedness Exercise	In this exercise, students learn planning, implementation and evaluation of actual countermeasures against various diseases, organizational and preparedness management in public health practice, and the roles of the public health officers, by visiting actual health administration environments.	2
Environmental Health	This course introduces students to environmental health perspectives on how environmental factors influence human health at individual and population levels. Students will understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects. Studies for specific environmental factors (air, water, soil, food, radiation, and climate variability) associated with health will be covered and discussed in the course.	1
Advanced Public Health Theory	This subject enables students to better understand the nature of health science contributing to public welfare, as well as the accompanying research & practical issues which need to be overcome, by addressing specific approaches and challenges from each of the School of Public Health's 13 research fields which constitute a contact point between public policy & activity.	2
Internship	Students attend public health facilities (public health research & testing facilities, think tanks, NPOs, healthcare facilities etc.) and leverage their subsequent practical experiences to develop skills in identifying personal initiatives, conducting analysis, and planning measures/policies.	2
Themed Research	Under the guidance of their research supervisor, students acquire advanced problem-solving capabilities through practical tasks such as fieldwork, data collection, analysis, statistical analysis and essay writing on a particular research theme.	6

修了生の声

湊 夕起(マサチューセッツ州立大学・ホリスティックヘルス専攻を経て2期生2年コース修了, 世界保健機構勤務)



家族の介護の体験で感じた「人が健康に生きるには？」という漠然とした疑問が、その後の海外生活で多種多様な文化や生活様式に触れた時、社会生活と健康との関係や、保健医療に関する社会のしくみへの興味につながりました。学部では、『健康』をテーマに学術横断研究を試みましたが、その後、社会への働きかけ方をより具体的に模索するなかで、予防から生活の質にいたるまで、広範に人々の健康にアプローチができる公衆衛生に魅力を感じました。東大 SPH では、様々な健康問題の真実をどのように見、科学的な根拠に基づいて判断するか、集団にアドバイスをするために信頼のおけるデータが必要であり、そのためには調査の質が大切となることなどを学びました。世界保健機構(World Health Organization)のジュネーブ本部に勤務する今、対象となる集団の単位は国、複数の国をまたぐ地域、そして世界全体へと大きくなりましたが、SPH で得られた視点や考え方は日々の業務の土台になっていると感じています。世界規模で保健プロジェクトを進める現場では、様々な立場のステークホルダーが交わり、目標の共有や合意が難しい場面が多々ありますが、そのような国際的な討議の場で必要となる公正な視点や判断基準は、SPH での学びによるものが大きいとも感じています。志を共有し尊敬し合うことができる仲間に出会えたことも、東大 SPH で得られた大きな財産です。

桜井 亮太(医学部医学科を経て4期生1年コース, 国際医療福祉大学)



私は、すでに海外留学から帰国した身ではありましたが、留学中に私の専門である循環器内科領域の将来の臨床研究のために、統計や臨床研究デザインなどをきちんと勉強する必要性を痛感していました。折しも、帰国後に友人から東大にも SPH ができたことを知らされ、大学での実験を一段落させてから、バス道路を挟んで反対側の SPH の門を叩きました。

せっかく仕事を辞め、授業料を払ってまで学生になるのだから元は取り返そうと、朝から晩までせっせと足繁く授業に通い、気付けば修了に必要な 30 単位をうっかり超える、上限の 50 単位を取得。十分お釣りがきました。

私は 1 年コースであったため、研究課題を設定せずに(受験前に研究課題を設定する必要に迫られた某なんとか大学は、軽く蹴って(蹴られて?)やりました)、広く浅く勉強しましたが、幸か不幸かそのお陰で、修了後は医療情報という、入学前には全く想像もしなかったフィールドで仕事をできるようになり、現在では、これまた全く想定外の疫学・生物統計分野の仕事もしております。

SPH では、様々なことを学べると思いますので、飽くなき探求心の下、幅広く知識や技術を吸収し、明日の日本を担う優秀な人材が一人でも多く育つことを期待しています。

定月 保就(5期生2年コース, 株式会社CACクロア)



東大 SPH は、公衆衛生分野の未来を担おうとする方にとって最高の環境であると思います。私は薬学部在籍時に疫学に興味をもち、より専門的に学んでみたいと思い SPH に入学しました。体系的、かつ豊富な事例とディスカッションを交えた講義はたいへん意義深く、当時の学びがきているのを日々感じています。

また、独力だけで成果を得るのはとても困難なことだと思います。私も現在の業務では、社内外含めた多くの方の協力を得ています。東大 SPH では、私のような学部卒の学生も、医師や看護師の方も肩を並べて講義を受け、社会にどのように研究活動をいかしていくかをディスカッションし、演習や見学にも一緒に参加します。このような多様な視点と考えに触れる機会は人生で初めてで、多くの気づきと学びが得られた貴重な時間でした。

今私のいる医薬業界でもビッグデータの活用が叫ばれ、法制度の整備も進んできました。しかし残念ながら、専門知識を体系的に有する専門家の数が十分ではありません。専門知識を体系的に学んだ SPH 卒業生が活躍する機会は、これからより一層増えてくると思います。ぜひ東大 SPH で学び、公衆衛生分野の未来を共に担っていきましょう！

井田 有亮(北海道医療大学大学院歯学研究科・博士課程修了を経て8期生1年コース, 東京大学)

多職種・多彩なバックグラウンドを有する学生が同じテーマで講義を受け、それぞれが独自の意見を表明して濃厚な議論を交わすという場があります。数少ないその一つが東大 SPH です。

専門性が高まれば高まるほど、各自のドメイン内での議論が中心になってしまうこれまでの医学・医療系の教育を受けてきた人にとっては、とても新鮮な感覚で毎日の講義を楽しく受けられる事は間違いないと思います。年々充実していく講義科目は、すでに卒業した私から見ても羨ましく思います。

私は SPH 修了後、東京大学医学部附属病院の企画情報運営部で教員として働いています。院内の情報システムの企画・管理などの病院業務や、巨大なデータベースそのものである病院情報システムから得られるデータを用いた研究、そして SPH の講義・実習など多忙な毎日です。政府の会議に参加することもあり、広い視点をもって医療を捉えるための SPH で学んだ基礎知識がすぐに役立っております。歯科医師である私は白衣を着て診療することこそ無くなりましたが、常に医療の現場にコミットする臨床家の矜持をもって仕事に邁進しております。



櫻谷 あすか(8期生2年コース, 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)



「病気の人だけでなく、全ての人が自分らしく、生き生き過ごすことに貢献をしたい」そんな思いから、学部を卒業後に、東大 SPH に入学しました。入学をしてから、最も実感したことは「SPH は志のある人が育つ場」だということです。臨床の経験もなければ、統計や医療の知識もない私でしたが、多くの授業から、研究に必要な知識、スキル、考え方を一から学ばせていただきました。そして、何より先生方の研究への熱い思いや謙虚な姿勢を肌で感じることができます。SPH で学ぶ中で、「研究を通して、世の中に貢献したい」思いが強くなり、精神保健学教室の博士課程に進学し、労働者を対象にしたメンタルヘルスの研究を続けています。働く方が、よりやりがいや満足感を感じながら仕事をするために、研究の面からアプローチをしています。「こんな研究がしたい」「このような形で世の中に貢献したい」様々な思いを抱いた仲間が集まりますが、SPH は自分の思いを形にできる場だと思います。様々なバックグラウンドや価値観を持った同期と、お互い切磋琢磨しながら、授業を受けた日々は、今でも大きな財産になっています。

山口 麻衣(9期生2年コース, 豊島区池袋保健所)

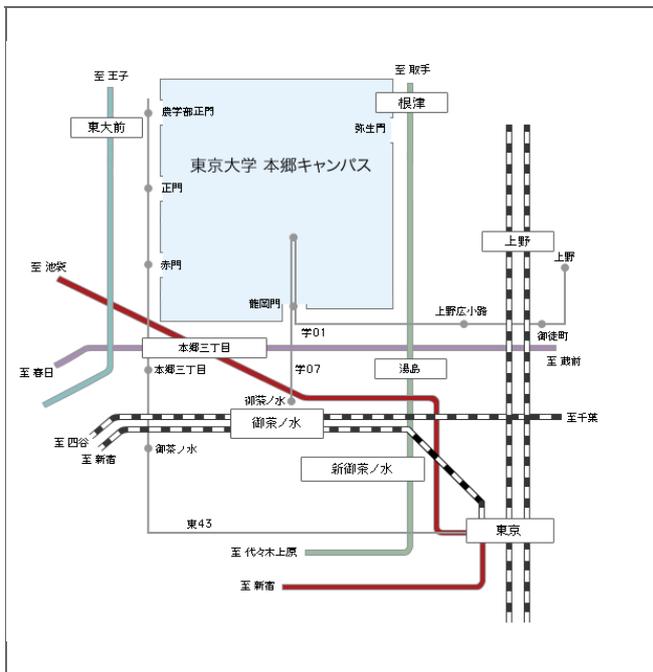


私は管理栄養士大学を卒業後、東大 SPH に入学しました。社会人経験がなく、知識・経験の乏しさゆえに周囲についていけないか不安を感じていました。しかし、情熱に溢れた先生方によるご指導はハイレベルながら非常に丁寧で、同期や先輩・後輩の方たちとは、年齢や職種に関係なく互いのことを尊重し助け合うことができ、とても濃密な時間を過ごすことができました。

現在、私は自治体の栄養士として、保健所に勤務しています。住民に栄養指導をするだけでなく、データを用いて課題を見出し、それをわかりやすく周囲に伝え、そして限られた資源の中から解決策を考えていくことに少しずつ取り組んでいます。時には困難な課題にもぶつかりますが、疫学・統計学を始めとする幅広い分野の講義、様々なバックグラウンドを持つ学生同士でのグループワークやディスカッション、日ごろ感じる疑問を昇華して追求した課題研究など、SPH での日々を通じて得た学びと先生方・先輩・同期との強靱なネットワークを支えに、業務に邁進しています。

新卒の方も自分のバックグラウンドや経験に囚われず、是非 SPH で学んで、社会へ飛び立って下さい。

アクセスマップ



※ 詳細については、公共健康医学専攻(専門職大学院)のホームページ <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/sph/>をご参照ください。



School of Public Health
The University of Tokyo

7-3-1Hongo,Bunkyo-ku,Tokyo,113-0033,Japan

2018 年 6 月発行